

令和6年度 学校教育自己診断 集計結果分析

大阪府立三国丘高等学校 学校教育自己診断委員会

回答の分析に際しては、[1]生徒、[2]保護者のアンケート結果についてA 肯定的意見の割合が85%を超えるもの、B 否定的意見の割合が25%を超えるもの、C 経年変化の大きかったものの3区分で行い、[3]教職員のアンケート結果については経年変化から分析した。さらに[1]～[3]で取り上げなかったものを[4]その他としてまとめた。

全体としては、肯定的意見が概ね70%～90%前後で推移している。今後も現状維持で満足するのではなく、工夫や再考を重ね、継続・発展させていく必要があると考えられる。

[1]生徒 回答数：1年 312 (96.9%) 2年 265 (82.6%) 3年 272 (86.1%) 計 849(88.5%)

A 肯定的意見（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が85%以上）

		肯定	否定
1	学校生活は楽しく、入学して良かった。	94.1%	4.5%
2	本校の自主自立（自律）を尊重する伝統は活かされている。	85.7%	11.1%
5	必要な進路情報の提供や卒業生との進路交流会の開催など、適切な進路指導を行っている。	93.2%	4.7%
6	学校生活を通じ、将来の生き方を考える様々な機会がある。	90.7%	7.4%
7	満足できる授業が多い。	85.6%	11.1%
10	人権、環境、福祉について学習する機会がある。	86.5%	11.2%
11	文化祭、体育祭や部活動において生徒は自主的に活動している。	95.2%	3.3%
12	学校は、生徒の健康管理や、健康指導を適切に行っている。	85.0%	10.7%
15	学校は、様々な危険防止についての指導に取り組んでいる。	86.2%	6.1%
16	生徒のプライバシーは守られている。	87.3%	7.8%
18	プロジェクト等の映像機器を活用した授業は効果的である。	90.8%	6.8%
19	三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。	89.3%	6.5%
21	スタディツアーや海外からの訪問など国際交流に関する取り組みが充実している。	90.7%	6.1%
22	コミュニケーション等に必要な英語を学ぶ機会がある。	86.1%	12.2%
23	学校はGoogle Workspace(classroomなどのアプリ群)やchromebookなどのICTを活用している。	92.1%	5.9%

【分析】

例年、肯定的意見が85%を超えるのは全23項目のうち7～8項目程度であるが、昨年度は11項目、今年度は15項目にのびた。昨年度から増えた項目は7、10、12、22であった。また、この5年間で最も高い肯定的意見の割合を示した項目は17項目におよび、今年度は相対的に生徒の評価が高かったと言える。学年別に見ると3年生は例年と大差は見られなかったが、1、2年生が肯定的な回答をした割合が高いことがわかった。2年生は昨年度も肯定的な回答が多かったこと、1年生は積極的に学校の取組みに参加する生徒が多いことが様々な項目に反映されたのではないかと考えられる。

B 否定的意見（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が25%以上）

		肯定					否定				
		R2	R3	R4	R5	R6	R2	R3	R4	R5	R6
8	大学受験に必要な科目にもっと重点を置いた授業をしてほしい。	63.4%	66.9%	64.9%	63.0%	63.4%	23.0%	21.0%	26.9%	28.0%	27.6%
9	大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力をいれてほしい。	49.0%	50.7%	51.2%	49.9%	50.9%	38.3%	36.4%	39.2%	39.3%	39.1%
20	土曜授業は、学習時間の確保に役立っている。(1・2年) 又は、役立った。(3年)	52.2%	52.3%	45.2%	48.5%	52.4%	36.0%	37.0%	44.1%	40.1%	37.2%

【分析】

上記の4項目のうち、8、9、20 はここ三年間連続して否定的意見が 25%以上となっている。肯定的意見もあわせてこの5年間を見ても例年と同じような値となっており、8、9に関しては大学受験に必要な勉強も、大学受験にとらわれない学習活動も、どちらも変わらずニーズがあると言える。20 の土曜授業については、昨年度に比べると肯定的意見が約4ポイント増加した。学年別に見てみると2、3年生は例年と大きな差はなかったが1年生が肯定的意見 53.8%と相対的に高かったことが影響したと考えられる。

C 経年変化の大きかったもの

		肯定					否定				
		R2	R3	R4	R5	R6	R2	R3	R4	R5	R6
7	満足できる授業が多い。	77.6%	83.2%	77.1%	81.9%	85.6%	17.7%	13.8%	19.8%	14.4%	11.0%
10	人権、環境、福祉について学習する機会がある。	84.0%	79.2%	62.9%	62.6%	86.4%	11.5%	16.0%	29.7%	28.9%	11.1%
12	学校は、生徒の健康管理や、健康指導を適切に行っている。	76.0%	77.9%	73.5%	81.3%	85.1%	15.8%	15.3%	20.0%	13.5%	10.6%
14	先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	59.5%	60.9%	58.3%	66.3%	72.4%	8.8%	9.0%	11.2%	8.7%	6.8%

【分析】

7については、昨年度と比べて約4ポイント上昇している。生徒のニーズにあわせた授業が行えていることが反映された結果だと考えられる。10については、人権講演会の時期とアンケート実施時期によっては、結果にバラつきがみられるためだと考えられるが、それ以外にも人権講演会の内容(同和問題に関わるもの)自体も影響していると考えられる。12については、ここ数年で最も肯定的評価が高い。健康管理指導が浸透している結果といえるが、他にも体育祭での熱中症対策の影響も反映しているとも考えられる。14「困ったときやいじめ等の状況において相談できる教員がいる」と感じることは、生徒の安心感につながる重要な要素であり、このまま肯定的意見が高く保たれるよう引き続き努めなければならない。

また、全体を通して、今年度の生徒の回答率は 88.5%であり、昨年度の 95.4%を大きく下回った。経年での分析を行う以上、できるだけ回答率を高めることも重要であろう。

【2】保護者 回答数：1年 259 (80.4%) 2年 172 (53.6%) 3年 179 (56.6%) 計 610 (63.6%)

A 肯定的意見（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が85%以上）

		肯定	否定
1	お子様にとって、学校生活は楽しく、入学させて良かった。	94.3%	3.0%
2	本校の自主自立(自律)を尊重する伝統は、よく活かされている。	91.6%	4.9%
3	生活指導において、学校の指導は適切だ。	85.2%	6.6%
5	学校生活を通じ、生徒は、将来の生き方を考える様々な機会を得ている。	88.9%	5.1%
11	文化祭や、体育祭、部活動等において、生徒の自主性が発揮されている。	93.3%	3.9%
20	学校は、教育活動について、情報提供の努力をしている。	86.1%	8.0%
22	授業参観や学校行事に参加したことがある。	90.0%	8.0%
23	三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。	88.2%	3.1%
26	学校は Google Workspace(classroom などのアプリ群) や chromebook などの ICT を活用している。	96.3%	3.7%

【分析】

肯定的意見が 85%以上となった項目数が1つ減った。内訳として、昨年度は 85%以上の項目ではなかった3「生活指導において、学校の指導は適切だ。」）が追加され、4「学校は、生徒が必要とする進路情報（大学・職業等）の提供など適切な進路指導に努めている。」（84.9%）、24「土曜授業は、学習時間の確保に役立っている。」（84.6%）については、85%以上の項目から外れたが、いずれも高い数値であることには変わりなく、保護者の方々が、本校の教育活動に非常に理解を示し、賛同しているためと考えられる。5、23 などが 85%以上の肯定的意見を得たのは、生徒

の将来についての進路指導が生徒だけでなく、保護者の方々にも高く評価されているからと思われる。また、26 が引き続き 85%を超える肯定的意見を得た。生徒への連絡事項等について classroom を積極的に活用しているとともに、Chromebook の迅速な配布・授業内外での使用等によって ICT を効果的に活用していることが評価されたと思われる。

B 否定的意見（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が25%以上）

		肯定	否定
6	大学受験に必要な科目にもっと重点を置いた授業をするべきだ。	47.2%	27.5%
7	大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力を入れて欲しい。	49.7%	33.6%

【分析】

6、7に関しては、例年、肯定的意見と否定的意見がどちらも高く、大学受験に必要な科目は大切であるが、同時に受験にとらわれず、広く教養も身につけることも大切であるという保護者の意見が反映されている。本校は、学校設定科目 Creative Solutions における探究活動（SSH、SGH 含む）、授業以外では部活動、生徒会活動など様々な活動が行われており、進路実現のための勉強とその他の学びのバランスをとりながら学校生活を送ることができるようなカリキュラム体制を組み、ニーズに応えている。

C 経年変化の大きかったもの

		R5	R6
9	人権、環境、福祉について、学習する機会がある。	53.2%	59.0%
15	学校は、様々な危険防止についての指導に取り組んでいる。	57.4%	66.6%

【分析】

9と15ともに肯定的意見が昨年度に比べて5ポイント以上増加した。9については生徒のアンケート結果とも同様の傾向が見られた。家庭内で、HR 活動の内容などを話題にしているためと考えられる。15 に関しては体育祭の際の熱中症対策が危険防止として評価されたために肯定的意見が増加したと考えられる。

また、全体として今年度の保護者のアンケート回収率は 63.6%であり、昨年度の 39.9%に比べて大きく増加した。正確な保護者の意見を把握するためにも今後も回収率を高めていく必要がある。

【3】教職員 回答数：45 (69.2%)

経年変化の大きかったもの

		R2	R3	R4	R5	R6
18	プロジェクタや ICT 機器を活用した授業は効果的である。	78.1%	85.3%	96.3%	87.5%	80.0%
27	学校では、生徒の活動の場として、ゆとりと潤いのある教育環境が整備されている。	31.3%	41.2%	51.9%	67.5%	60.0%
28	学校では、教員間で、授業方法等について検討する機会がよくある。	56.3%	73.5%	74.1%	80.0%	68.9%
30	学校では、生徒の個人情報完全に管理されている。	84.4%	85.3%	88.9%	77.5%	93.3%

【分析】

ここでは、昨年度と比較して大きく数値が変化した項目の中でも、特にこの5年間の水準と比べても変化が大きい項目に注目した。

18については、令和4年度をピークに肯定的意見が減少傾向にある。ICT 機器が普及し、それぞれの教員がさらなる活用を模索する段階に入ったことが影響していると考えられる。18 の設問自体も「授業で有効に活用できているか」といった問い方に変更することも検討していきたい。27については、昨年度をピークに減少しているが、これは2Fフロアの改修、外装工事等が続いていることが影響していると考えられる。28 に関しても、昨年度と比べて肯定的意見が大幅に減少している。授業公開などを実施しているが、授業方法等の検討には結びついていない可能性がある。授業を公開するだけでなく、授業方法自体を教員間で検討する時間をとることも必要ではないかと考えられる。30 については、肯定的意見が、ここ五年間で最大となっている。生徒等の個人情報の適切な保管を徹底する意識が、教職員の間で浸透したためであると考えられる。

【4】その他

①進路指導に関する事項（生徒回答）

		R2	R3	R4	R5	R6
5	必要な進路情報の提供や卒業生との進路交流会の開催など、適切な進路指導を行っている。	85.4%	91.6%	92.4%	92.4%	93.2%

【分析】

進路に関する項目は例年高い数値で推移しているが、今年度は肯定的意見が93.2%とここ5年間で最大となった。卒業生の体験談を聞く交流会や京大キャンパスガイド、阪大ツアー等オープンキャンパスの実施、研究室訪問や医学部体験など、自らの進路について考える機会が多く、生徒たちは積極的に参加していた。今後とも情報を積極的に収集し、生徒の志望する進路の実現をめざして引き続き努めるとともに、生徒が主体的に自らの進路を選択していけるよう、情報過多や生徒が受身の姿勢とならないよう留意し、指導を行っていく必要がある。

②授業に関する事項

生徒回答

		R2	R3	R4	R5	R6
7	満足できる授業が多い。	77.6%	83.2%	77.1%	81.9%	85.6%

教員回答

		R2	R3	R4	R5	R6
28	学校では、教員間で、授業方法等について検討する機会がよくある。	56.3%	73.5%	74.1%	80.0%	68.9%

【分析】

生徒の授業の満足度に対する肯定的意見が上昇傾向にあり、今年度は過去5年間で最大となった。一方、教員の授業改善に関する項目の肯定的回答率は、今年度は大幅に減少した。授業以外の業務の多忙化が授業改善を阻害している可能性も考えられる。今後も毎年満足度を高く維持できるよう努めていく必要がある。

③施設設備に関する事項

		R2	R3	R4	R5	R6
28	学校の施設設備は、学習環境として適切である。	80.4%	82.8%	82.7%	84.7%	83.5%

【分析】

生徒のロッカーが小さいというご意見が寄せられることが多いが、現状では下足室を拡張するスペースや生徒の荷物置き場に充てられる場所の確保が、安全上の理由から困難な状況となっている。さらに、PTA 教育環境委員会が生徒（回答数 835 人）に実施したアンケートによると、設備改善を要望する場所として「ロッカー」と回答した生徒は15%に留まっており、その他の設備に比べて改善要望の声は小さい。保護者の意見も尊重しつつ、実態把握に努めながら、引き続き経営委員会等で検討していく。

④スマートフォンの使用に関する事項

生徒回答

24	1日にスマートフォンを勉強以外で使用している時間は平均して次のどれくらいですか。	R4	R5	R6
	2時間以上3時間未満	27.0%	28.0%	28.2%
	3時間以上4時間未満	14.5%	12.4%	12.1%
	4時間以上	20.2%	14.8%	13.9%

【分析】

生徒の携帯電話の使用時間については、3時間以上使用している生徒は昨年度よりは減少した。保護者の「29 お子様のスマートフォン使用について、時間制限をされていますか。」の回答では、「していない」が約79.7%となっていることから、生徒の自主性に任せているご家庭が多いといえる。携帯の使用時間は生活習慣や学習時間にも関わるものなので、家庭と学校が情報交換しながら、適切に生徒に注意を促していく必要があると考えられる。

⑤読書について

生徒回答

29	一カ月に何冊くらい本を読みますか。	R4	R5	R6
	1冊以下	36.9%	79.0%	81.7%
	2～3冊	19.5%	17.2%	14.0%
	4～5冊	24.2%	2.6%	2.7%

【分析】

本を読まない生徒が上昇傾向にあり、今年度は8割以上の生徒が一か月に1冊以下と回答している。スマートフォンの影響等も考えられるが、そもそも読書習慣のない生徒が入学してきていることが予想される。読書は論理的思考力を養う上でも重要であらゆる学習の基盤となる。本校生徒の学力を向上させていくためにも、読書習慣をきちんと確立させていく必要がある。

以上